

研究所だより

第404号
2019年 7月18日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“夏がくれば 思い出す はるかな尾瀬 遠い空
霧のなかに うかびくる やさしい影 野の小径
水芭蕉の花が 咲いている 夢見て咲いている水のほとり
石楠花色に たそがれる はるかな尾瀬 遠い空 ”
『夏の思い出』 1949年 日本の歌曲



～本格的な夏の到来！熱中症対策を万全に！～

7月23日(火)は「大暑」。(23日から立秋までの期間を大暑と呼ぶ場合もあります。)大暑は書いて字の如く、一年で最も暑くなる時期を指します。梅雨明けの時期で夏の土用もこの頃。いよいよ本格的な夏の到来です。

大暑の日は、天ぷらの日として、土用の丑の日、8月29日の焼き肉の日と並んで「夏バテ防止三大食べ物記念日」とされています。どうして天ぷらなのかと言うと「暑さに負けないように栄養豊富な天ぷらを食べて、夏を乗り切ろう」という意味があるそうです。また、大暑をはじめとした夏の暑さに打ち勝つためには「う」のつく食べ物を摂るとよいとも言われています。

- ①ウナギ；夏バテ防止に効果があるビタミンB1、Aを豊富に含む
- ②梅干し；疲労回復に役立つクエン酸が効果を発揮
- ③うどん；夏バテ予防・食欲増進

また、この季節、ニュースや天気予報で「夏日」と言う言葉をよく耳にするとお思います。これは暑さの指標に使われる言葉で、一日の最高気温によって使い分けられています。

(夏日：25℃以上、真夏日：30℃以上、猛暑日：35℃以上)

＝研究協力校の取組＝

三崎小学校では、環境学習の一貫として「山・川・海」の循環作用が自然の摂理であり、そのつながりが身近な自然を育み、人々の暮らしと深く関わっていることを理解するために海浜学習に取り組んでいます。16日(火)には、爪白海岸でシュノーケリング体験と海中の生き物(魚、サンゴ、ナマコ、ウニ等)の観察を行いました。(協力：竜串タビツグセンター、海洋館、環境省)



☆第69次土佐清水市教育研究集会・一日教研のご案内☆

- 期日：2019年 8月 7日(水)
- 会場：土佐清水市立中央公民館
- 日程：受付 8:45～9:00
開会行事 9:00～9:30
講演 9:40～11:45

講師：杉本 美香先生(柔道家)

*2010年東京世界選手権2階級制覇

*2012年ロンドンオリンピック銀メダル獲得

演題：『Always smiling ～夢をかなえるには～』

部会研修 13:15～16:45(各会場)



夏季休業中の予定(教育センターは、夏季休業・閉庁期間中も運営しています)

① 第3回あすなろネットワーク

日時：8月23日(火) 15:00～

会場：教育センター

内容：「発達障害傾向のある子どもへの発達段階・場面に応じたサポート方法」

講師：種村 祐太さん

(東大阪市発達障害サポートセンターピュア センター長)

② 第4回 郷土の偉人「中浜万次郎」副読本編集委員会

日時：8月27日(火) 13:30～

会場：教育センター



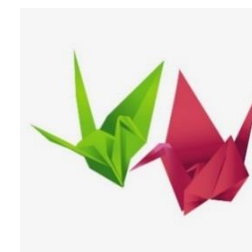
◇平和学習DVDの紹介！◇

平和学習用DVDの紹介です。ぜひご利用ください。

- ・「はとよ ひろしまの空を」(21分)
- ・「ヒロシマに一番電車が走った」(32分)
- ・「夏服の少女たち」(34分)
- ・「対馬丸ーさよなら沖縄ー」(75分)
- ・「消えさらぬ傷のあと 火の海・大阪」(20分)
- ・「地雷を踏んだ象『モーターの物語』」(24分)
- ・「にんげんをかえせ」(20分)
- ・「さとうきび畑」(11分)
- ・「地球の風ぐるま ヒロシマ・ナガサキに学ぶ」(32分)
- ・「予言」(42分)
- ・「戦争ー子どもたちの遺言」(53分)
- ・「増大する放射能」(22分)
- ・「おかあさんの木」(22分)
- ・「おこりじぞう」(28分)

◇教材・書籍等のご利用をお待ちしています！◇

各出版社の教科書(小中)や低学年用のプログラミング教材、特別支援教育、人権教育、防災教育、環境教育などの図書、DVD・ビデオ等も所蔵していますので、夏休み中にぜひ一度見に来てください。



「思考力を育む」ということについて考える

「思考力を育む」とは

「思考力が育つ」というのはどのような状態なのでしょう。まず「よりよく思考する」というのがどのようなものなのかを考えてみると、「より多くの事項(条件)を考慮に入れて考えている状態」や「より深く掘り下げて考えている状態」などが想定されます。また、同じ条件で同じ結論を導き出した場合には、より短時間で結論を導き出した方が思考力は高いと評価されるでしょう。

これから、目指すものは「より短時間で、より広く、より思考をし、その結果を生み出すことができるようになること」と考えることができそうです。



「思考力を育む」ために

思考力を育むためにはどうしたらいいのでしょうか。それは、実際に思考する活動を繰り返し経験すること、しかもその子の持つ思考力をフルに駆使する場面を繰り返し経験することが必要であろうと推察されます。では、それを授業中に実現するためには、何が必要でしょうか。

最初に挙げられるのは、子供たちの意欲を高めることです。課題に対して「解決したい!」という意欲を持たせたり、学習活動に必然性を持たせたりすることにより、積極的に課題に取り組みたいような課題設定や場面設定が大切です。次に挙げられるのは、子供たちが2種類の知識・技能を身に付けていることです。

1つは、思考の仕方(=考え方)についての知識・技能。もう1つは、学習内容に関連する知識・技能です。

例えば、理科で虫を比較して「昆虫」という概念を生み出す学習では、「比較する=同じところと違うところを見付ける」という「考え方」を知っていて、それを活用することが必要になります。また、ダンゴムシ、チョウ、カブトムシなど比較する際には、それらがどんなものであるかということや体の部位を区別できるなど、そこで学ぶ内容の知識・技能が必要です。

こうした要素を備え、子供たちが思考力をフルに駆使する(したくなる)授業にしていかなければなりません。

思考を「見える化」する

教師は、そうした授業において、児童生徒の思考力を高めるための指導や支援をしていくこととなります。しかし、思考は脳の中で行われるものであり、外からは見えません。それを知るためには、思考を「見える化(可視化)」することが必要になります。

思考を「見える化」することは、必ずしも目新しいことではなく、これまでも学校現場で行われてきたものがあります。教室においてそうした思考の見える化のために行われていたのが「言葉にする」ということでした。

例えば、イラストに示したような、著者の主張とその理由を問う場面は、授業の中でよく見られるものだと思います。このように言葉にすることで、その子がどのような思考をしたのかを、教師や他の子供たちは知ることができるわけです。



思考のパターンを経験的に学ぶ

「考え方(思考様式)」には、幾つかのパターンがあります。例えば、「もし~なら~である」とか図の例のような「主張は~である。その根拠は~である」や「例えば~」「共通するのは~である」というような、説明するときの話し方の基本パターンを授業の中で指導されることが良くあると思います。実はこれらは、「考え方」の基本的なパターンとも言えるということがお分かりになると思います。

イラストの例も、こうした思考パターンに沿って問うことによって、子供の思考を「見える化」とすると同時に、子供の立場で言えば、教師の発問に答えていくことにより、思考の基本的なパターンを経験し学んでいることにもなるわけです。

思考ツールを活用する

ビジネスの現場でよく使われている思考ツールが、学校現場でもよく使われるようになってきました。

例えば左のイラスト(下)に示した「クラゲチャート」という思考ツールは、上部にある記入欄から下に何本かの足が出てそれぞれに記入欄があるような図です。上部の記入欄に結論(主張)を記入し、下の足の部分に理由などを列記するというような使い方をします。

イラスト(上)のような対話を授業中にクラス全員と行うことはできませんが、クラゲチャートを使えば、それぞれが、どのように考えたのかを「見える化」できるわけです。

同時に、どう考えればいいのか分からず文字どおり「思考停止」に陥っている子の思考過程の道案内の役割を果たすことにもなります。

このように、児童生徒が考え方を学び、その子の思考を「見える化」するために、思考ツールが学校で活用されているのです。

こうして見える化することで、他の子との思考の交流や共有も容易になります。他の子との思考の交流や共有も容易になります。言い換えれば、対話し、自らの考えを深めていくような活動が容易になるのです。

